

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年3月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	パン・菓子製造業	後継者不足等の影響によって組合員の数が減少している。さらに能登半島地震によって廃業せざるを得ない業者が何社もあった。
	調味材料製造業	醤油の出荷量は前年同月に比べ、大幅に減少した。先月に起こった能登半島地震によって能登地区の組合員にも被害が生じている。
	パン・菓子製造業	卒業・入学シーズンであったが、昨年に比べるとやや売上が落ち込んだ。
繊維・同製品	その他の織物業	多品種、少ロット、短納期製品が続き生産効率が低下している。受注状況も減少している。このような厳しい状況が続く中、差別化を図り、設備増強計画を立て、自社で伸ばせる分野を実行に移す組合員も多く見られるようになって来ている。一方で、廃業・休業等も増加しており、産地として深刻な事態となっている。
	織物業	相変わらず厳しい状況が続いている。シルク綿等の複合高品質ブランド用途織物でかろうじて小ロットの受注を確保している状況である。
	ニット生地製造業	昨年も冴えなかったが、今年は更に厳しい状況になりつつある。
	その他の織物業	3月度は、昨年に比べ売上は約10%の減少となった。業界を取り巻く環境は悪く、この3月決算期では、大幅な収益の悪化となってこの期を終了した。今後も組合員のみならず、組合の経営も厳しい状況が続くものと考えられる。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	春の需要期を控え、これから需要増となる事を期待している。地震による復興もどのようになるだろうか。
	製材業、木製品製造業	3月度の売上は天候に恵まれなかったため、前年に比べ悪かった。資材においては、北洋材価格に一部変化が生じている。この価格については原木に対し、一部関税を上げて半製品の販売増強を図る思惑が見えた。今後の動向に注視していかなければならない。
窯業・土石製品	砕石製造業	3月の組合取扱出荷量は、対前年同月比生コン向け出荷20.9%減、合材用アスファルト向け29.2%減で推移し、全体量でも23.1%減と大きく減少した。年間トータルでは対前年度比生コン向け出荷2.9%増、アスファルト合材向け出荷0.4%で推移し、全体出荷量でも2.5%増で推移した。これは南加賀地区の生コン向けの出荷が全体を支えたからである。平成19年度は、更に厳しい情勢が予想され、組合員の協業化、集約化を推進する中、1社がプラントの集約化を進めている。
	陶磁器・同関連製品製造業	依然として低迷が続いており、売上もほぼ横ばいの状態である。昨年度より九谷茶碗まつりの会場候補地の調査を進めてきたが、今年度は、昨年と同様の場所で開催する事に決定し、その準備に向けて動き出したところである。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリートの出荷状況は、前年同月比80.5%と大幅なマイナスとなった。南加賀、鶴来・白峰地区ではプラスとなったが、金沢、羽咋・鹿島、七尾、能登地区ではマイナスで推移した。官公需、民需では共にマイナスとなった。
	粘土かわら製造業	出荷量は昨年と変わらないが、能登半島地震がどう影響を及ぼすのか注視しなければならない。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	設備投資が盛んに行われている。景気も相変わらず順調に推移している。
	非鉄金属・同合金圧延業	前年同月に比べ売上高が約20%減少した。
	鉄素形材製造業	自動車及び建設機械関連の好調で、景況は持続の傾向にあるものの、一般産業機械が伸び悩んでおり、総体的に受注に陰りが見えてきている。この事は一過性のもなのか、 castingを含む産業用諸材料の高騰が影響しているものなのかを見極め、判断し、受注体制を整えなければならない。
	鉄素形材製造業	当工業団地内の組合員企業の数社は、昨年より新たな設備の増設を行っており、業況も順調に推移しているとの事である。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年3月分)

一般機器	繊維機械製造業	機械部品加工、鑄造、鍛造、プレス、電機など鉄工関係の業界はいずれも好況が続いている。設備の導入も活発化している。工作機械の中でも特に大型機械の納期は長くなっているが、早くに注文したところは、昨年後半から次々に設置され稼働しており、これに刺激された形で設備投資に踏み切る所が増えている。
	プレス、工作機械	3月に入り、エンドユーザーから値下げ要求が増加しており、苦慮を強いられている。但し、鋼材の中でもステンレスがいまだに高騰し続けており、今後は価格に転嫁出来なければ、収益を圧迫する要因になると予想される。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	一部公共工事関連企業の収益状況が依然として悪化の傾向にある。その他として原材料の値上がりの傾向も見られるようになってきている。
	機械金属、機械器具の製造	順調な操業を続けている。納期の遅れを出さない事を目標に、更なる生産効率の向上に力を注いでいる。今までに投資してきた設備や人が、ようやくその能力を発揮し出し、効率の良い安定した生産が出来る様になって来ている。これらの能力の向上は、これからの生産増やコストダウン活動への大きな力となる事であろう。
その他の製造業	漆器製造業	3月に入ってようやく出荷額の減少に歯止めがかかったようである。1、2月の落ち込みの原因は、百貨店や専門店等での市場の縮小が影響しているものと思われる。産地内においても職人の数や問屋の数も減少傾向にあり、全体的に縮小している傾向が見られる。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	生産数量の減少で売上の確保が難しい。絹織物の精練加工場が産地からまた無くなってしまった。
	農畜産物・水産物卸売業	売上高はやや増加した。これまでは減少が続いていたので、下げ止まりが期待される。今後の動向に注視したい。
	一般機械器具卸売業	例年に無い暖冬で仕事の進行状況が速く、3月にしてはそこそこの数字が残せたようである。しかしながら、住宅関連においては横ばい状態であり、工場関連が相応な動きがあって、下支えをしたようである。
小売業	燃料小売業	安値店と一般価格店の価格差が拡大し、無益な価格競争を繰り広げている。仕切り価格のアップにより月初に値上げされたものの、一部が値上げに踏み切らなかつたため、それに反発し、値上げ前より更に低レベルの価格競争となった。
	機械器具小売業	3月は、液晶・PDPテレビが120%と前年を越えたものの、ルームエアコン・冷蔵庫・洗濯機・掃除機等白物家電品の動きが悪く、全体では対前年同月90%の伸びに終わった。能登半島地震による家電品の損傷は、門前地区に集中して発生しており、各社その対応に追われている。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	例年の春の気温が一変し、寒さが戻った影響から春物衣料は低調であった。加えて、下旬に起こった能登半島地震の影響で、客数が極端に減少し、対前年比94.5%で推移した。
	鮮魚小売業	3月上旬、中旬は入荷量が少なく閑散としていた。下旬になって入荷量は増加したものの、全体的に活気が感じられない。
	他に分類されない その他の小売業	売上は前年を上回っているが、地震による風評災害が心配である。
	百貨店・総合スーパー	3月の売上は予算費91.8%、前年比95.5%で前年割れであった。特に衣料品の売上が悪かった。先月とは逆で今月は寒かった為に、春物商品が売れなかった事が主な原因である。
	米穀類小売業	販売量は前月比で若干伸びている小売店もあるようだが、目立った数量ではない。組合員企業の多くは、経営状態が安定しておらず廃業する組合員も目立ってきている。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年3月分)

非 製 造 業	近江町市場	客足が減少傾向にある。近江町の再開発と地震による影響のものと思われる。	
	商店街	尾張町商店街	3月に入ってぶり返したような冬将軍による異常気象だけかと思ったら、25日の能登沖地震で、県内は一瞬凍り付いたようになってしまったのではないだろうか。翌日、能登にある商店を見舞いがてら訪問してみると、地域というよりも部分の差（同じ建物でも部屋が違えば被害があったりなかったり）の激しさに愕然とした。
	サービス業	旅館、ホテル	観光客の減少傾向が出始めている。
		自動車整備業	継続検査実績車両数は、前年同月比6.5%減、前月比44.7%増となった。新規検査状況は、前年同月比7.9%減、前月比64.0%増となった。
		旅館、ホテル	既存旅館の会社形態と盤石な新資本との競合の中で、旅館の個性化のための資本力の違いが大きな課題である。更に、旅館の経済的格差からも厳しさが強まるだろう。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は、前年同月比34.0%の増となった。内訳は、民間土木で61.1%減、民間建築で337.3%の増となり、民間では150.6%増で推移した。公共土木は29.9%減、公共建築は57.2%減となり、公共では34.0%減で推移した。民間建築は大口の物件があった影響から大幅増となった。
		一般土木建築工事業	建設業界が直面している経営上の問題点は、需要の停滞、人件費以外の経費の増加と資材など仕入単価の上昇に反しての販売価格の低下と上昇難、大企業の進出による競争の激化が挙げられる。公共事業の縮減は、受注競争の激化を招き、ダンピング受注の傾向が続いており、先行きの見通しが見えない状況にある。公共事業の減少と一般競争入札の導入などの影響から、生き残りをかけた競争が激化している。
		板金・金物工事業	受注がスーパーゼネコンの下請けに片寄って来ている。組合員間で価格に差が生じて来ている。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	軽油の価格が4月も3円程度値上げの要請があった。今年も燃料の高騰が続くのであろうか。軽油価格の値上げ分を運賃に転嫁出来るように業界として取り組んで行かなければならない。
		一般乗用旅客自動車運送業	3月に入って多少の戻り寒波があったものの、今冬は観測史上まれな雪なし暖冬に終わった。その結果、足場が良すぎてタクシーの輸送回数は押しなべて例年を下回り、暖冬とは裏腹の厳しい経営環境での越冬となった。各事業者ともこれからの行楽シーズンの人出に密かな期待を寄せているところである。また、業界内では利用者サービスについて色々と検討がなされており、その一つに禁煙化が検討されている。お客様に快適な車内空間をという想いがあるのはもとより、乗務員の健康管理の為に大切な事と考えられている。禁煙タクシー時代の到来もそう遠くはないと思われる。
		一般貨物自動車運送業	売上高は地域差はあるものの、総じて横ばいないし微増である。収益状況は僅かに好転している模様。取引条件は全く改善されていない。その他として軽油の価格は前年比では下がっているものの、前月よりは値上げの傾向にある。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等